

原著：秋田大学医短紀要 9：82-88, 2001.

英国の理学療法教育の質管理システム
— ハートフォードシャー大学を例に —

A View of Quality Management for Physiotherapy Education in the UK

進 藤 伸 一

Shinichi SHINDO

はじめに

欧米では、80年代から高等教育における質の問題が議論されるようになった。これは、製造業にはじまった品質管理の手法がサービス業へ拡大し、さらにそれまで聖域視されることの多かった専門職の職域にまで拡大してきた流れを反映してのことである¹⁾。

英国では、90年代に入って高等教育機関の大改革（大学とポリテクニクの再編など）が行われたが、これに合わせて全高等教育機関を対象に教育の質評価と勧告を行う民間の高等教育質保証機関が設立された²⁾。この大改革で、理学療法士など保健関連職種³⁾の教育はすべて大学で行われるようになったため、教育の質評価がこれまで以上に厳密に行われるようになった。また、こうした評価が行われているため、教育の質管理システムは各コースで大きな違いが見られない。

本稿では、これまでほとんど紹介されることのなかった英国の理学療法教育の質管理システムについて、筆者が客員研究員として滞在した英国ハートフォードシャー大学理学療法学科を例に報告する。

1 英国の理学療法コースの認可および再審査
の実際

1. コースの認可と再審査システム

英国での理学療法コースの新設には、各大学の最高機関の決定と、英国理学療法協会と医療専門職評議会の合同委員会（以下、合同委員会）の認可が必要である。コースを新設しようとする大学は、2名の学外専門家の助言を得て必要な準備を進めるとともに、最終的には2名の学外審査委員の審査に合格する必要がある³⁾。これによって新設コースの学位が認定されることになる³⁾。また、合同委員会の認可は、学士取得

秋田大学医療技術短期大学部
理学療法学科

Key Words：英国
理学療法教育
教育の質
管理システム

表1 再審査の根拠となる情報

1. 学生の学習成果（試験答案、コースワーク、研究報告、卒業論文など）の見本
2. 各種教育・学習場面の視察
3. 学習環境・資源の視察
4. 学科スタッフとのミーティング
5. 学生、卒業生、雇用者とのミーティング
6. 学外評価委員報告書を含む各種記録・報告書

とともに理学療法士国家資格が与えられるために必要となっている⁴⁾。これら二重の認可手続きは、相互に矛盾がないよう調整されている。

すでに開設している理学療法コースの再審査は、学位の適格性については高等教育質保証機関が3年毎⁵⁾に、理学療法士国家資格授与の適格性については合同委員会が5年毎⁴⁾に実施しており、コースの継続にはどちらの組織からも認定される必要がある。

また、所属する大学による定例監査が年1回あり、その大学自体も高等教育質保証機関による5年毎の監査を受けることになっている⁶⁾。このように、理学療法コースの質は多重的に審査されている。

2. コースの再審査の実際

ここでは、筆者が滞在中に実施された高等教育質保証機関の再審査について述べたい。この再審査は、同一大学内の複数保健関連コース（看護学は除く）を合同で審査するものであった。

審査の手順⁵⁾は、1) 事前に提出された自己評価報告書の分析、2) 審査の根拠となる情報の収集、3) 情報の分析、4) 評価判定と要約、5) 報告書作成と公表、である。この2) から4) は、6名（保健関連コースの数で変わる）の審査委員が直接大学を訪問して実施するもので、4日間の日程で行われた。再審査の根拠となる情報の種類を表1に示す。学生の学習成果の見本、教育・学習場面の視察、学習環境・資源の視察は、それぞれ各コースの教育の結果、過程、構造に対応した評価項目であることがわ

表2 再審査の評価項目と評価段階

1. 評価項目
 - 1) カリキュラムの構想・内容・編成
 - 2) 教育・学習・評価
 - 3) 学業の進歩と到達
 - 4) 学生への援助・指導
 - 5) 学習環境・資源
 - 6) 教育の質の管理・改善
2. 評価段階
 - 1) 設定された目的や目標に到達していない。改善が必要な大きな問題がある。
 - 2) 設定された目的に対し一応の貢献がみられるが、大きな改善が必要である。設定された目標に一応到達している。
 - 3) 設定された目的に対し相当の貢献がみられるが、改善の余地がある。設定された目標に相当到達している。
 - 4) 設定された目的に対し十分な貢献がみられ、設定された目標に到達している。

かる。また、学生の学習成果の見本は採点結果とともに提出するので、各コースの成績評価基準も審査されることになる。ミーティングは当事者から直接情報を得るために行われたが、教育の提供者と受益者に対して別々にもたれ、受益者には学生だけでなく卒業生やその雇用者もいて、長期的な教育の成果を確認しようとしていることがうかがえた。各種記録・報告書は、教育の質管理システムとその実際を検討するためのものである。

再審査の評価判定は、表2に示すように6つの評価項目について、それぞれ4段階の評価基準にしたがって行われた。1項目でも1段階と評価された場合は、一定の改善期間をおいた後、再審査することになっている。評価段階を点数化して合計すると4～24点になるが、22点以上が優良コースと認定される。再審査の結果は公表⁷⁾されるため、各コースはできるだけ高い得点をマークするよう日常から努力している。

II 理学療法コースの質管理システム

理学療法コースの質管理が日常的にどのように行われているか、ハートフォードシャー大学を例に述べたい。

1. システムの概要

ハートフォードシャー大学の教育の質管理システムを図1に示す³⁾。中心には、大学教育研究評議委員会から学生への具体的教育活動にいたる垂直ラインの管理体制がある。学科長や学部長など各部門の責任者は、このラインからは外れている。このなかで、理学療法コースの質管理でとくに重要なのは、学科カリキュラム委員会である。図の左側には学生からのフィードバックと、教員の質向上のための教員評価と職能開発プログラム、図の右側には外部評価委員からのフィードバックと、学科長の関わりが示

されている。

重要なのは、1) 学生と外部評価委員からのフィードバック、2) 学科カリキュラム委員会の質改善方針の具体化、3) 教員職能開発プログラム、が噛み合っただけで教育の質管理が行われていることである。以下、これらを少し詳しく述べたい。

2. 教育活動のフィードバック

1) 学生による点検・評価

各学期終了時に、学生に対し大学全体のアンケート調査(40項目)⁸⁾と授業別アンケート調査(5項目)⁹⁾が行われる。授業別アンケートの調査項目を表3に示す。項目は少ないが、授業を反省するうえで貴重な資料となっている。とくに、学生が高く評価した授業の工夫を教員同士が学び合い、教育の質の向上に役立っている。大学全体のものは学科別にデータを引き出すことが

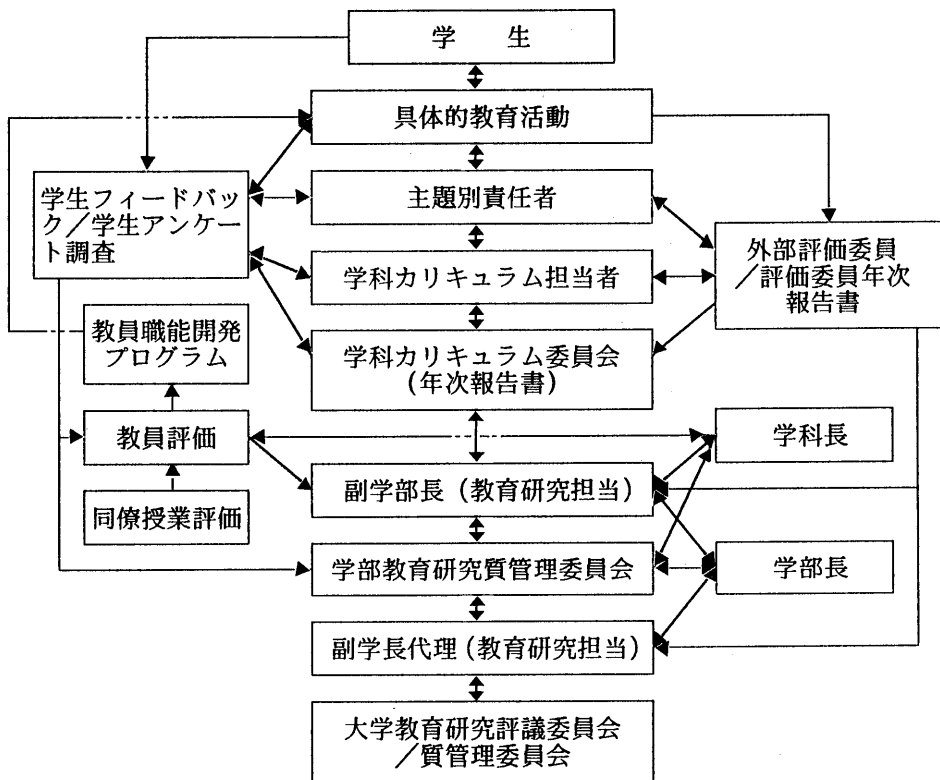


図1 ハートフォードシャー大学の教育の質管理システム

表3 授業別アンケートの調査項目

1. コースは提示した目標成果に到達するよ
うな学習経験を提供したか
2. コースは良く準備されていたか
3. 自己学習が奨励されたか
4. 自分の学習をより改善したと思う要因を
選びなさい
 - ① 学習を支援する環境の改善
 - ② コースの情報や資料の改善
 - ③ 担当教員とのコミュニケーション
機会の拡大
 - ④ いろいろな形態での学習体験
 - ⑤ 教育機材・機器の改善
5. 自分の評価をより改善したと思う要因を
選びなさい
 - ① 評価方法の明確なガイドライン
 - ② いろいろな種類の評価方法
 - ③ より役立つフィードバック
 - ④ コース中の評価時期の改善
 - ⑤ 試験とコースワークの比重の変更

注) 質問1～3は、①強い同意、②同意
③どちらとも言えない、④不同意
⑤強い不同意、から選択する。

でき、他学科や全学と比較して学科の教育の質を評価することができる。

臨床教育に対する学生アンケート調査(75項目)¹⁰⁾も、各実習終了時に行っている。実習体験から見た学内教育の評価は、学内教育全体を反省するうえで有益な資料となっている。

2) 学外評価委員による点検・評価

各コースは、学外評価委員を2名任命することになっている。委員には、英国理学療法協会の推薦する理学療法士があたるが、大学での教育経験などの厳しい条件がつけられている¹⁾。これは、学位取得と同時に理学療法士国家資格が与えられることから取られた措置である。学外評価委員には、試験やコースワークの採点つき見本が送られ、必要であれば学内授業や臨床実習の視察も可能である。こうした情報を基に、

学科の教育の質を評価したうえで学位認定会議に出席してその認定に参加する。また年1回、評価結果と必要な勧告を盛り込んだ年次報告書を提出する。この報告書は、いったん副学長代理(教育研究担当)に提出されることになっており、上部組織も学科の状況を把握する資料にしている。

3. 学科カリキュラム委員会

学科カリキュラム委員会は、年2回開かれ、年度終了後に「年次報告書」¹¹⁾を発行する。委員会の構成メンバーは、教員カリキュラム委員と学生代表9名(各学年から3名)である。

年度総括の委員会では、1)卒業、進級、留年、退学などの学事事項、2)前年度の質改善方針の遂行状況、3)学外評価委員報告書と学生アンケート調査結果、などについて議論される。学外評価委員は出席しないが、報告書の勧告内容については慎重に検討される。学生代表からの意見や改善要求についても話し合わせ、教員と学生がお互いに確認しながら次年度の改善方針を決めていく。つまり、学生と学外評価委員による点検・評価のフィードバックは、ここで具体的な教育の質改善方針となっていくのである。この方針は、各課題の責任者、実行期限、評価方法などをふくむ行動計画にまで具体化されるため、その遂行性は高い。

この他に、学科主任によって学科報告書⁹⁾が毎年まとめられる。これには、学科の長期構想、学生の学習教育、教員の研究や職能開発プログラムなど、学科全般の総括と方針がまとめられている。

III 教員評価と職能開発プログラム

コースの質管理の一環として、各大学では教員評価と職能開発プログラムが提供されており、ハートフォードシャー大学を例にその内容を述べたい。

1. 職能開発のための教員評価

教員評価は年1回行われるが、その目的は職

表4 同僚授業評価の評価項目

1. 学習の目標成果の明快さ
2. 計画性と系統性
3. 手順とアプローチ
4. 授業のペース
5. 内容（最新性、正確性、妥当性、実例の提示、難易度、学生ニーズへの対応）
6. 学生の参加状況
7. 説明の質
8. 話の聞き取りやすさと明快さ
9. 配布資料、OHP、板書の質
10. 学習の目標成果に対する到達度

表5 学習開発プログラムの内容

1. 大集団に対する講義
2. 小集団での教育と学習
3. 評価方法
4. 情報通信と学習における教育媒体の使用
5. 実践を通して教育能力を開発する方法
6. 高等教育における中心的教育技術
7. 教育資源にもとづいた学習法
8. 教育研究活動を継続していく基本的対策
9. カリキュラムにおける機会均等
10. 学生の学習の強化
11. 教育研究における個別指導

能開発プログラムを通して教員の質向上を図ることにある。評価の根拠となる情報には、1) 教員の研究業績、2) 授業に対する学生アンケート結果、3) 同僚による授業評価、4) 自己評価報告などがあり、これらをもとに学科長と話しあいながら次年度の職能開発プログラムを決めていく。プログラムには、一般的な学会や研修会への参加の他に、後で述べる新人教員や高学位取得プログラム、そして情報機器の使用法や管理運営など、多様なものが含まれる。年度中間に、プログラムの遂行状況について検討する話し合いがもたれる。

同僚教員（1名）による授業評価は年2回行われる。その評価項目を表4に示す。評価を受ける教員も授業終了後、同じ項目の自己評価を行い、これをもとに話し合っって優れている点や改善の必要な点を確認し、必要と思われる職能開発プログラム案を学科長に提出する。重要な点は、教員評価のプロセスで自己評価が高く位置づけられており、それに客観的な情報を加えて合意しながら職能開発プログラムを決めて行くこと、また評価の経過については当事者の秘密事項になっており公表されないことである。

2. 新人教員プログラム

教育経験のない新人教員に対しては、大学院レベルの学習開発プログラム（修士の1/3の単位数）を履修し、有資格教員になることが求め

られている。一般には、所属大学のプログラムに1年間（週1回半日）通うことになるが、学科ではその時間の業務は免除される。学習開発プログラムで学ぶ内容を表5に示す¹²⁾。新人教員はこのうち、最も基本的な1～5を学ぶ。新人教員は同時に、プログラムの一環として助言指導者が任命される¹³⁾。これには、学科内の経験ある教員が当たることが多く、主に専門分野の教育方法について指導する。助言指導者は、新人教員の相談にのり、自分の授業を見せたり授業を観察して必要な助言をする。新人教員は、プログラム期間中に6回授業が観察され、必要な助言を受けることができる。プログラムの単位認定には、コースワークとともに実際の授業の評価に合格することが必要である。

なお、表5の6～11は教育経験のある教員対象の内容であり、プログラム終了後も引き続き受講することができる。

3. 高学位取得プログラム

英国の高等教育には、研究を通して修士や博士の学位を取得するコースが充実しており、教員の身分のままこれらのコースに参加してより高い学位を取得しやすい環境がある。研究にも力を入れる必要があるため教員にとっての負担は大きい。高学位の研究プログラムにサポートされている教員の存在は、学科の研究活動の1つの指標にもなるため、積極的に奨励されて

いる。研究テーマによっては、所属学科の高学位取得プログラムに参加することも可能で、この場合は学位プログラムの研究が同時に学科の研究実績にもなっていく。

また、授業を通して取得する修士コースにはパートタイム制のものも多く、先に述べた新人教員プログラムの高等教育方法学コースを継続していけば修士（教育学）の取得も可能である。このように、教員自身の学習や研究の機会の豊富な点も日本と違った点といえよう。

おわりに

以上、英国において理学療法教育の質管理がどのように行われているか、ハートフォードシャー大学を例にその概略を紹介してきた。

その特徴を要約すると、1) 理学療法コースは定期的に再審査が行われていること、2) 各コースは、学生や学外評価委員のフィードバックを含む質管理システムを確立しており、日常的に質向上の努力をしていること、3) 教員の質向上のための評価と職能開発プログラムが提供されていること、が挙げられる。そして、これらが相乗効果を生みだして持続的な質向上が図られている。

理学療法教育の成果を上げるためには、個々の教員とともに組織としての力量を向上させることが重要である。今後、日本においても、紹介してきたような教育の質管理システムを構築することが不可欠となるであろう。

(本稿をまとめるにあたり、貴重なご助言を頂いたハートフォードシャー大学理学療法学科科長 T. Watson 教授に深謝いたします。)

文 献

- 1) Doidge J and Whitchurch C (1993) Total Quality Matters-TQM in a Higher Education Context, University of Manchester, Manchester
- 2) Higher Education Quality Council (1996) Guidelines on Quality Assurance, Higher Education Quality Council, London
- 3) Faculty of Health and Human Sciences (2000) Faculty Academic Quality Handbook, University of Hertfordshire, Hertfordshire
- 4) Chartered Society of Physiotherapy and Council for Professions Supplementary to Medicine (1996) Validation Guidelines, London
- 5) Quality Assurance Agency for Higher Education (1997) Subject Review Handbook-October 1998 to September 2000, Quality Assurance Agency for Higher Education, Gloucester
- 6) Quality Assurance Group, Higher Education Quality Council (1996) Quality Audit Report-University of Hertfordshire, Quality Assurance Group, Higher Education Quality Council, Birmingham
- 7) Quality Assurance Agency for Higher Education (1999) Annual Report and financial Summary 98/99, Quality Assurance Agency for Higher Education, Gloucester
- 8) Starr (1994) Student Feedback-University and School Results 93/94, University of Hertfordshire, Hertfordshire
- 9) Department of Physiotherapy, Faculty of Health and Human Sciences (2000) Department of Physiotherapy Report, University of Hertfordshire, Hertfordshire
- 10) Department of Physiotherapy, Faculty of Health and Human Sciences (2000) BSc(Hons)Physiotherapy Clinical Education Scheme Handbook, University of Hertfordshire, Hertfordshire
- 11) Department of Physiotherapy, Faculty of Health and Human Sciences (2000) Annual Monitoring Evaluation and Review Report-BSc (Hons) Physiotherapy, University of Hertfordshire, Hertfordshire
- 12) Staff and Education Development Association (1997-1999) SEDA Specials, SEDA, Birmingham

(88) 進藤伸一／英国の理学療法教育の質管理システムーハートフォードシャー大学を例にー

- 13) Learning Development, Faculty of Humanities, Languages and Education (2000) Professional Development Programme. University of Hertfordshire. Hertfordshire